

緑肥用エンバク (府県用)

新発売

なな
七つの威力の

とちゆたか

画期的な直立型^{アップライト}

間作栽培では、作物を妨害することのない理想的な草型です。

多収です

分けつ能力が高く、多収。また、受光体制がよく、密植するほど多収になります。

太茎・大葉

条播での防風栽培で、防風効果が極めて高い。

深根性

一般にエンバクは他の麦類(オオムギ、コムギ、ライムギ)に比べ、根の発達が優れていますが、なかでも「とちゆたか」は根が太く、土壌の物理性を改善します。

極めて優れる初期生育

短期間のすぎ込み、緑肥に便利です。

病気に強い

エンバクにも病気があります。主に、冠さび病(葉や茎にオレンジ色の粉が付きまします)とレッドリーフ病(葉の先端から赤くなります)があり、いずれも低収の原因になります。「とちゆたか」はこれらの病気に極めて強いエンバクです。

耐倒伏性極強

稈が強く、根はりのよいエンバクです。めったなことでは倒れません。

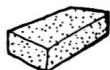
とちゆたかの利用法

春

秋

コンニャクの間作栽培に。★

— 播種量 4～6 kg を条播します。★



タバコの後作に。★

吸肥性の高いタバコには土作りが不可欠。8～9月中に播種し、12月にすぎ込むか、堆肥にします。★



夏野菜の定植前に。★

— 播種量 6～10kg を散播し、定植2週間前にすぎ込みます。★
早播きほど多収になります。★



夏野菜・高原野菜の後作に。★

8～9月中に播種し、12月にすぎ込みます。播種が遅くなる場合、密植(10～12 kg)して、収量を確保しましょう。★

